



ふれあい広場から見た千枚の水鏡

六月四日、第六回「お田植え感謝祭」が連谷お助け隊主催で行われた。この、イベントは前号でも述べたように過去に山津波で十一人の尊い命を失われ、また、頻繁に起こる転石や山崩れから集団移転した厳しい過去にもめげず、棚田を守り抜いた偉大なる先人たちへの思いを田植えの終わった一夜、棚田へろうそくを灯し「鎮魂の灯火」と題して地元住民で語り合おうと開催してきた。今回は、東日本大震災の被災地の一日も早い復興を願い、ろうそくで「ガンバロウ日本」のエールを送り、災害義援金の協力を仰いだ。「お田植え感謝祭」も耳込み、口コミで有名となり大勢の観客が訪れ、

その対応にお助け隊も四苦八苦のエネルギーを費やした。会場では、お助け隊、棚田っ娘、保存会の面々が焼肉、五平餅、猪汁などを出店。恒例の「こども陣太鼓」の出演、また、この地方で活躍する「クマガイ&どりちい」など五組が特別出演。メンバーの伴奏で連谷小学校五名(全校児童)は全国棚田サミット公式テーマソング「棚田へ行こう」をリズム感たっぷりとい歌い観衆から拍手を得た。暮色に浮かび上がる約二千本の「鎮魂の灯火」に埋め尽くすカメラマンや観客約五百人をひととき厳肅な世界へ導いた。連谷お助け隊の皆さん、企画、準備、開催、片づけと大変ご苦労様でした。

**景観環境整備・学習活動
あいち森と緑づくり事業活用**

① 五月二十一日、連谷地区方瀬集落の生活道路(市道)に覆い被さる杉柵や雑木などの除伐を主体に方瀬組の皆さん、保存会、連谷お助け隊の出役で行われた。この事業を活用しての景観環境整備はすでに三年にも及び、お化けの出そうな「根道」や狐伝説のある「ひとつや」など、車で通っても、うす気味の悪かった道路も明るくなり、生活環境の安全確保ができた。方瀬組の皆さんは大変喜んでおられる。



② 五月二十九日、保存会、お助け隊は台風二号が四国沖で熱低となつたが西三河地方大雨警報発令中、来る六月四日、お助け隊主催「お田植え感謝祭」を見据え、千枚田入り口付近やふれあい広場の草刈り作業を実施した。この日、お助け隊も降りしきる大雨のなか「ガンバロウ日本」のロウソク絵文字の組み立てや竹きりに余念がなかった。こうした地域皆んなの努力が大きな絆を創る「四谷の千枚田」は力のある大きな宝である。



③ 六月九日、豊橋調理製菓専門学校生五十五名は千枚田の実習田で自らが植えた稲の生育調査や田の草とりを実施、また、梅取りや郷土料理の実習も行った。

④ 六月十六日、新城市立中部小学校児童三十五名が千枚田を訪れ、棚田の持つ機能、生物多様性などを学びながらふれあい広場まで上る。雨の場合は身平橋集会場場で学習する。

千年の杜植樹祭参加

五月二十一日、横浜ゴム「千年の杜」植樹祭に保存会から高橋庄一、高橋伸治、高橋孝行、今泉雅男、小山衛、松下 誠、村雲伸一、原田武典、原田英史、小山舜二が参加した。

生中継

① 六月二日、千枚田からNHKの生中継「ほっとイブニング」が放送された。内容は千枚田の保存活動を主題に連谷小学校全校児童五名がお田植え感謝祭で歌う「棚田へ行くこう」を千枚田の四季の写真を持つ



つてリズムカルに歌った。

② 六月八日、千枚田から中京テレ

ビ「おはとび生中継」が早朝五時二十分から放送された。

保存会総会

五月二十一日、鞍掛山麓千枚田保存会の総会が開催された。

平成23年度役員
 二行治 一明 男史 一弘 誠
 舜孝 伸廣 伸義 雅英 庄泰
 山橋 橋山 雲 泉 田橋 山下
 小高 高小 村林 今原 高小 松
 長 長 事 事 事 事 事 事 問 問 計
 会 副 理 理 理 理 理 理 顧 顧 会

二十二年度の主な事業として①横浜ゴム新入社員研修 ②お田植え感謝祭協力(連谷お助け隊主催) ③AZ社ボランティア活動受け入れ ④全国棚田サミット参加 ⑤COP10対応 ⑥大林・方瀬集落生活道路等の環境整備、千枚田ふれあい広場等の草刈作業・都市交流の一環とした稲作体験学習等の受け入れ「あいち森と緑づくり事業」を活用⑦「千枚田だより」の発行、各マスコミ等の対応等々が報告された。なお、すべての事業に連谷お助け隊の大きな協力を得たことへの報告があった。

行 平成二十三年六月十五日
 鞍掛山麓千枚田保存会
 文 責 小山舜二